

令和 7 年度白神山地世界遺産地域の管理に関する懇談会 概要報告

白神山地世界遺産地域連絡会議

1 日 時

令和 7 年 8 月 26 日（火）18:00～20:05

2 場 所

藤里町総合開発センター 大ホール（2 階）

3 参加者

一般・団体 14 名（秋田県内在住者 12 名、青森県内在住者 1 名、秋田・青森
県内以外在住者 1 名）

※ 欠席 2 名（青森県内在住者 2 名）

連絡会議構成機関 30 名（東北地方環境事務所、東北森林管理局、青森県、秋田県、
鱒ヶ沢町、藤里町、八峰町）

計 44 名

4 概 要

参加申込の段階で事前にいただいた質問等への回答を資料に一部盛り込み、
白神山地世界遺産地域の管理に関する概要等の資料について、各構成機関より
以下の項目の説明を行った。

- （1）令和 7 年度の主な事業計画・実績について
- （2）白神山地及び周辺地域の通行止め、復旧等見込み情報について
- （3）白神山地世界遺産地域周辺のナラ枯れ被害状況について

その後、最初に概要等の説明の中に盛り込めなかった事前質問等について各
機関より回答し、それらの回答も踏まえてさらに意見交換を行った。参加者か
ら出された主な提案、要望、意見は以下のとおり。

《主な提案、要望、意見》

【ユネスコエコパーク関係】

- ・ 日本自然保護協会に長く勤められ、白神山地が世界遺産になるときに実務で走り回った吉田正人さんの考えは、白神山地は自然を厳格に守っているというところは合格点、しかし、文化の面、人と暮らしの両立という面からみれば不合格、自然と人と文化というのを両立させる、それであって本来の世界遺産というもの。また、昨年 12 月に弘前で開催された白神山地の科学委員会では、委員の一人である国際教養大学の熊谷嘉隆副学長も、秋田、東北、縄文文化、ブナ帯文化、今はまだ点であるが、点ではな

く面的に広げようという考えが大事であるとし、ユネスコエコパークの提案をしている。私も、今回白神山地のユネスコエコパーク登録をこの場で提案したい。

- ・ 環白神ユネスコエコパーク構想に関して、秋田県側と青森県側とが話し合い、早期に形になることを希望する。
- ・ （上記提案について）ユネスコエコパークの登録申請は大賛成。

【入山関係】

- ・ （発言者が）入山の関係で一番問題と考えているのは、白神山地全体が入山禁止と思われてしまっていること。管理計画ができる前、世界遺産になった時に観光客が殺到すると報道され、禁止しなければ荒らされるという懸念が生じた経緯から、禁止という言葉だけが生きている。管理計画では禁止という言葉はどこにも無いのだから、運用による制限のガイド付きで入山（一夏 10 人でもいい）すれば、禁止というイメージが消える。自分が提案しているのは、粕毛川の水沢ルートを整備し秋田側コアエリアまで入山できるようにするというもの。粕毛川源流は緩やかな斜面で、誰でも歩きやすいところ。
- ・ ほとんど手付かずの自然を将来の子供や孫に残していくことはとても大事なことで、青森県側は、それまでに住民が利用していた道とか、以前からあった登山道、それは、いわば慣習上そこは通っていいとしたのであって、秋田県側にはそういうのがなかった。そういうことで、青森県側と秋田県側で基本的な入山に対する考え方は同じものだと思っている。事ある度にこのような話が出ることに非常に違和感を感じている。
- ・ 秋田側コアエリア入山に関しては現状のままで推移し、周辺部（バッファエリア含む）の整備を重点的に行ってほしい。
- ・ 世界遺産になって、本当に皆さん喜んでいる。この根底には、我々の青森県、秋田県含めての関係市町村の、先祖からの熱い森を思う心が世界遺産を引き寄せたと思っている。根底には白神を愛する共通の思いを持つ人々であり、この入山問題にしても、そんなに遠くはないなと、一緒になれるのかなと感じた。

【登山道の整備関係】

- ・ 二ツ森登山道の途中、山の斜面に階段状に作られた道路が、春の雪消えと同時に引きずられて毎年直している。そこは止めて、尾根の一番高い部

分に登山道を付け替えてほしい。また、泊岳から水沢川の上流にあるブナの森公園に行くルートを作り直しをしてほしい。

《その他の意見等》

- ・ 水沢林道の整備を急いで行ってほしい。
- ・ 入山規制、入山問題について、どんな形で情報発信しているか。
- ・ 白神エリアにおけるナラ枯れの状況を聞きたい。
- ・ クマの出没との関係で、奥山は餌があるのか。
- ・ 青森県と秋田県の入山に関する対応の違いについて現状を聞きたい。
- ・ 今後の核心エリアを歩ける人材をどのように育てていくのか。